

平成 29 年度事業報告

重点目標：「特定健診、がん検診をみんなで受けよう！」
 ー健診率、がん検診率のアップを目指すー

1) 主催事業

月 日	事業内容	場 所	備 考
05.31	総会	上宇部センター	事業計画、予算等を審議
05.31	チャレンジデー	各会場	主催及び各団体との協賛にて参加
06.5～6	特定健診、がん検診	上宇部センター	
8月～2月	宇部志立大学大学院健康学コース受講	宇部市保健センターほか	役員5名が受講し、「がん検診受診率アップ」の戦略を調査研究アンケート調査を実施
09.05	健康かみうべ懇話会	上宇部センター	校区開業医との連携協力を協議
12.17	健康ウォーキング	中村・中尾地区	校区内歴史探訪をしながら健康ウォーキング
平日、夏休み	ラジオ体操	センター 各自治会	ラジオ体操実施
随時	役員会・幹事会	上宇部センター	行事企画・実施について協議
通年	特定健診、がん検診向上キャンペーン	校区の各地	各種キャンペーンを企画・実施
9月	受動喫煙防止	センター等	喫煙場所の縮小や移動

2) 共催事業

06.25	かみリンピック	上宇部小グラウンド	コミュニティ、体振と協賛
11.12	校区文化祭参加	上宇部センター	整形外科医院の協力で「ロコモ診断と指導」を実施
夏季 秋季	球技大会	上宇部小グラウンド、 体育館	体振主催行事に協賛
随時	学べるランチ等 自治会行事に参加	各自治会館	健康相談（血圧測定、健診、減塩の呼びかけ等）

宇部志立市民大学大学院

健康学コース

報告書



“いのちは検診で手に入れよう！”

—がん検診受診率の向上をめざして—



平成 30 年 3 月

健康かみうべ21

浅田宏之、小泉利治、住居孝紀
原田和子、松山一人

1. はじめに

宇部市では、次世代を担う人材を発掘・育成するとともに市民力の向上を目的に「宇部志立市民大学」を創設し、これまで多くの市民が受講してきた。今年度から新しく大学院が開校し、さらに充実した学びの場を提供することになった。

一方、上宇部校区では、すべての住民が健康に暮らせる地域社会を実現するために、平成 26 年 2 月に自治会が主体となって健康づくりの団体「健康かみうべ21」（以下 KK21 と記す）を立ち上げ活動してきた。今年度は実質 3 年目を迎えたが、校区住民の「健康寿命を延ばす」ことをスローガンとし、毎年重点目標を決めて取り組んでいる。今年度の重点目標の 1 つとして、「がん検診率の向上」を掲げ、具体的な取り組みを協議している中で、宇部志立市民大学大学院開設の情報を得たことから、役員有志がこれに参加し、調査研究することにした。

この調査研究においては、住民のがん検診率が他校区と比較して低い理由を明らかにすることが先決であると考えた。そのために、主として校区住民に対するアンケート調査を実施することにし、その結果を分析して、今後の検診率向上の目指す計画策定に取り組むこととした。

ここに、その調査研究の結果を簡単にまとめて報告します。皆様の忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ下さいますようお願い致します。

2. 上宇部校区のがん検診率

がん（悪性新生物）は、日本人の死亡原因の 3 割を占め、心疾患や肺炎を抜いてトップに位置付けられている。胃がん、乳がん、肺がん、大腸がん、子宮がんは、それぞれ特定の方法で行う検診を受けることで早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されている。そこで、宇部市でも、市民のがん検診を呼びかけ、受診の機会を提供しているが、上記 5 つのがん受診率は 10～30% 台で、いずれも低い状況である。

一方、図 1 は、宇部市が実施した平成 28 年度における上宇部校区の住民の受診率を、宇部市平均および高い受診率の他校区と比較した結果を示している。この調査の対象者は、国民健康保険（国保）受給者であるが、図から明らかなように、上宇部校区の受診率は、いずれのがんでも宇部市の平均より低く、また、高い検診率を示す他の校区に比較しても著しく低い。

このようなことから、KK21 では平成 29 年度の重点目標の 1 つを「がん検診率の向上」に定め、宇部市が開設した大学院において調査研究を行うことにした。

具体的には、KK21 の役員有志が大学院を受講し、住民へのアンケート調査を実施することにより、がん検診率の低い理由を明らかにし、その対策を研究することにした。

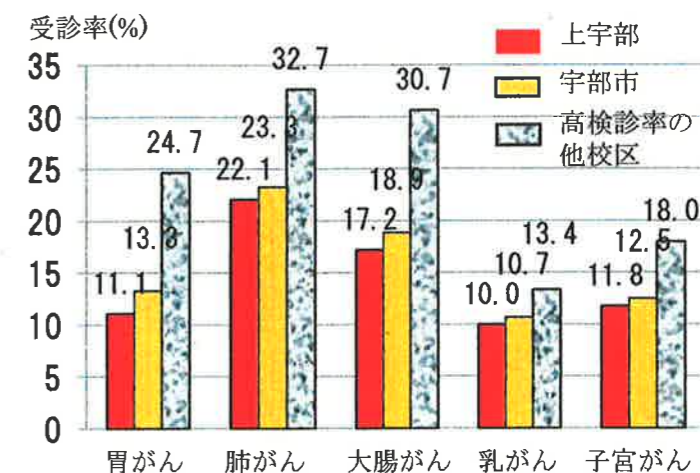


図 1. 上宇部校区のがん検診率比較

3. がん検診率向上啓発ティッシュの配布

KK21 の本年度の重要目標である「がん検診率の向上」を目指して先ず取り組んだ活動は、校区で開催される各種のイベントで「がん検診啓発ティッシュ」の配布を行ってきた。というのは、目標を達成するには、校区住民にがんの早期発見、早期治療の大切なことを十分に理解してもらうことが重要であると考えた。図 2 に挿入したラベルを示す。

なお、アンケートをお願いする際、本啓発ティッシュを同時に渡して、その効果についての質問を付け加えた。



図 2. 啓発ティッシュのラベル

4. アンケート調査について

1) アンケート項目について

調査票は、別紙 1 に示す。

質問は、できるだけ簡潔に設定し、回答者に過度の負担がかからないように配慮した。

2) 調査の方法と回答者の分類

アンケート調査は、上宇部校区の住民(14,000人)の30歳未満の人口(約10,000人)の1割を目標に実施した。調査にあたって配布先は、次の3つのルートとした。

- ① 自治会連合会を通じて、原則として単位自治会(48区)の班長に回答してもらうよう依頼した。班長は、全員校区住民であり、また、世帯主が就任していることから、比較的年齢層の年代の人を抽出できると考えた(依頼数: 650、回答数: 468、回収率: 72.0%)。
- ② 上宇部校区で開業されている5医院を選び、先生から通院されている患者を対象に実施していただいた。患者は校区外の方もおられるので、上宇部校区以外の方の回答も開業医を通して得られた。(依頼数: 250、回答数: 179、回収率: 71.6%)
- ③ 校区文化祭などイベントへの参加者に直接依頼した。アンケートに参加した人は、上宇部校区の住民である(依頼数および回答数: 65、回収率: 100%)

以上の通り、依頼数は全部で 965 通であり、回答数 712 通、回収率は全体で 73.8%と高い数値が得られた。調査依頼先別の回答状況は、図 3 の (A) に示す。また、校区別回答者は、(B) に示すが、上宇部校区の回答者が 80%、他校区が 20%の割合となった。

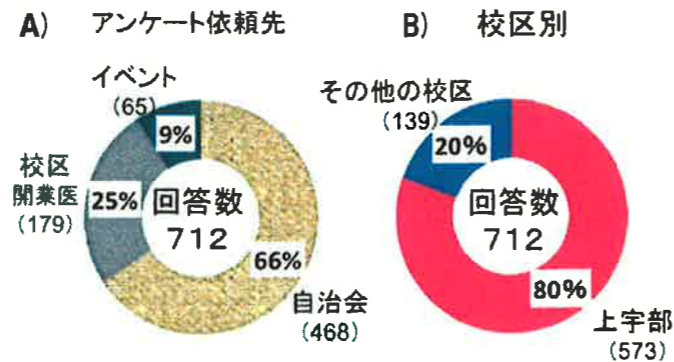


図 3. アンケートの回答状況

がん検診についてのアンケート

住民皆様のがん検診受診率向上のために下記の設問ご記入をお願いします。

- お住まいの校区()
- 年代 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・75以上
- 性別: 男 女
- がん検診啓発ティッシュを買って
受診しようと思った そうは思わない 関心がない
- がん検診は受けたことがありますか
ある ない

「ある」と答えた方(複数回答可)

- 毎年 隔年 気付いた時 覚えていない

- 健康管理のため
- がんは怖いから
- 報道や広報で受診を勧めたから
- 知人ががんになったから
- 身内ががんになったから
- その他

「ない」と答えた方
受けない理由(複数回答可)

- 健康に自信がある
- がんと診断されたら怖いから
- 検診費用が高い
- どこで受診したらいいのか知らない
- 面倒
- 仕事や家事等で時間がない
- 検診車の来る回数が少ない
- 検診に行く手段(方法)がない
- 受診出来るのが平日だから
- その他



※がんに罹った方(本人、身内、知人)体験談の発表の場があれば、協力していただけますか。ご協力いただける方は、下記にご記入下さい。個人情報を守ります。発表方法等は相談させていただきます。

お名前【 】
連絡先(携帯・自宅電話)【 】

次に、上宇部校区と他校区の回答者について、それぞれ男女別および年齢別にまとめて図4に示す。

男女別の回答者は、いずれの校区においても、男性が33~35%、女性が65~67%とほぼ同じ傾向であった。

年齢別については、50歳以上の回答者が2/3以上となり、期待通りの結果となった。校区別では上宇部校区が高齢者の比率がやや高かった。

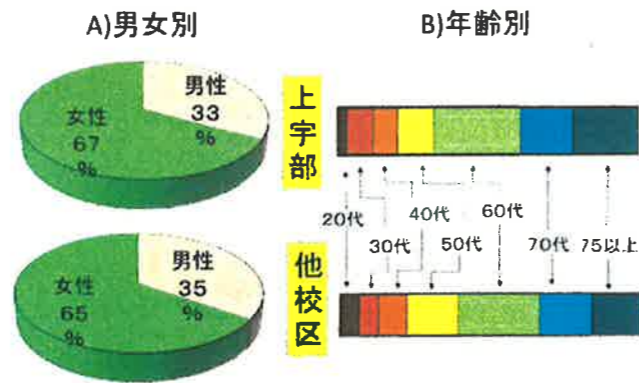


図4. 男女別、年齢別回答者の比較

5. アンケート調査結果

1) 啓発ティッシュの効果

前述の通り、図3に示すラベルを挿入した啓発ティッシュを配布し、がん検診の重要性を発信してきたが、この効果について聞いた。その結果を図5に示す。

「受信しようと思った」と答えた人は、全体で43%と、「受信しようとは思わない」の34%を上回った。男女間では男性より女性が啓発の効果を示している。一方、年齢や校区別には大きな差は見られなかった。

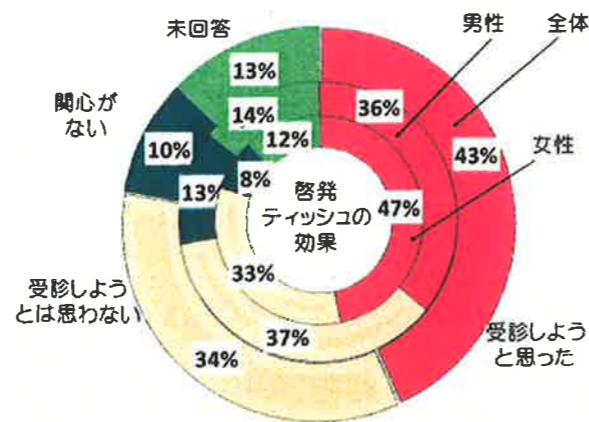


図5. 啓発ティッシュの効果

2) がん検診の有無について

「がん検診を受けたことがあるか？」との質問に対する回答結果を男女別、他校区との比較を含めて図6に、年齢別に図7に示す。

図6で明らかのように、全体の68%の人ががん検診を受けていると回答している。また、他校区と比較しても、高い比率であった。この比率は、厚生労働省などが全国規模で実施し、公表している50%前後の値より高い。しかし、図1に示した宇部市の調査結果10~20%の値

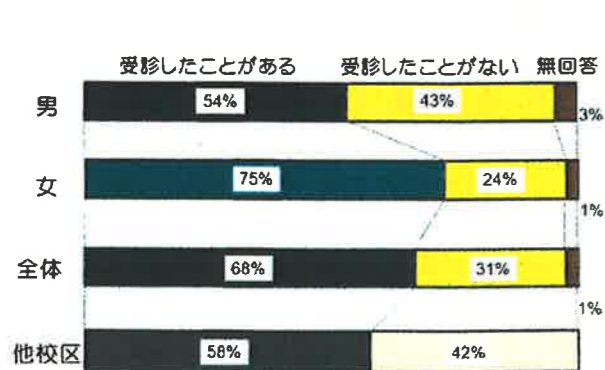


図6. がん検診受診の状況

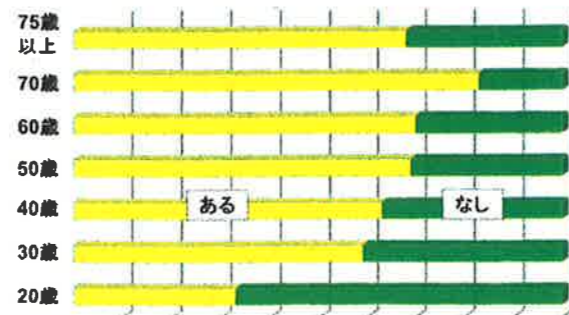


図7. 年齢別がん検診受診の状況

と大きくかけ離れている。こうした差が出たのは、今回行った調査は全ての健康保険受給者が対象で、宇部市の調査の国保受給者を対象にしたものと異なっているためと考えられる。

また、年齢別回答においては、年齢が増えるにしたがって検診率が増加する傾向がある。一方、75歳以上では検診率は低下した。

3) がん検診の頻度

前項で「がん検診を受けたことがある」と答えた方にその時期、頻度を尋ねた結果を図8に示した。

これによると、半数以上の方が1~2年に一度は検診を受けていることがわかる。興味深いところは、検診を受けた比率が低い男性(図6)が、積極的に検診を受けている点である。これが何を意味するかは、詳しく検討してはいない。

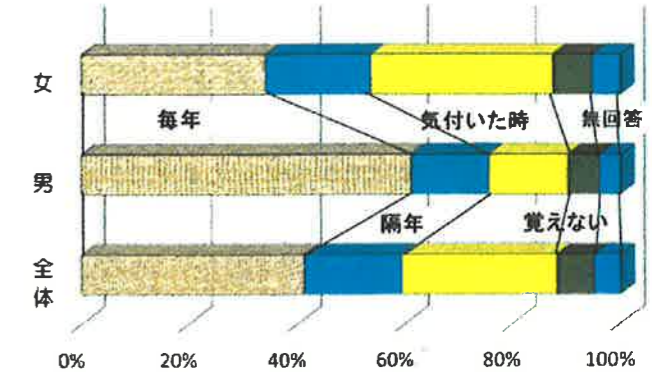


図8. がん検診の頻度

4) がん検診を受診する理由

がん検診を受けた方にその理由をたずねたところ、図9、図10に示す結果が得られた。両図では、それぞれ宇部校区の男女別および他校区との比較して示している。

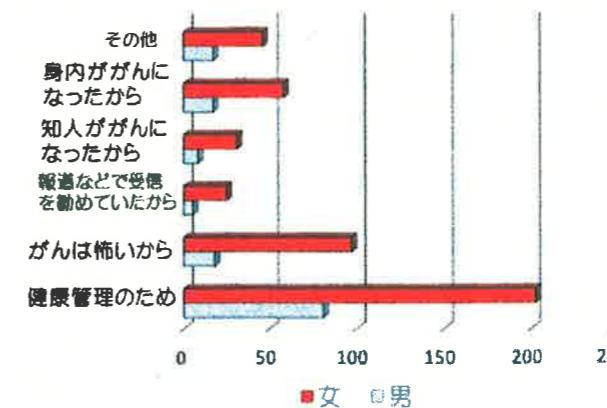


図9. がん検診を受けた理由(男女別比較)

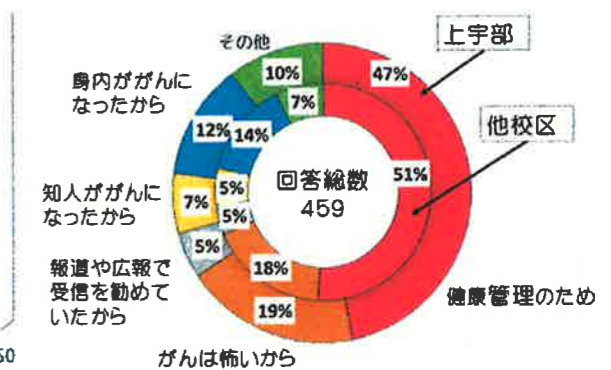


図10. がん検診を受けた理由(校区別比較)

図9、10から分かることは、受診する理由に男女や校区別の差はないことがわかる。

また、がん検診を受ける理由で最も高いのは、「健康管理のため」であり、ほぼ理由の半分を占めており、健康に気遣う住民の意識の高さが窺えた。さらに、注目すべき点は、「身内や知人ががんになったから」との理由を挙げている人が多いことであった。

5) がん検診を受けない理由

がん検診を受けなかった人にその理由を聞いた。上宇部校区の回答をまとめて図11に、校

区別および年齢別に分けて比較分析した結果を 12-A)および 12~B) にそれぞれ示した。

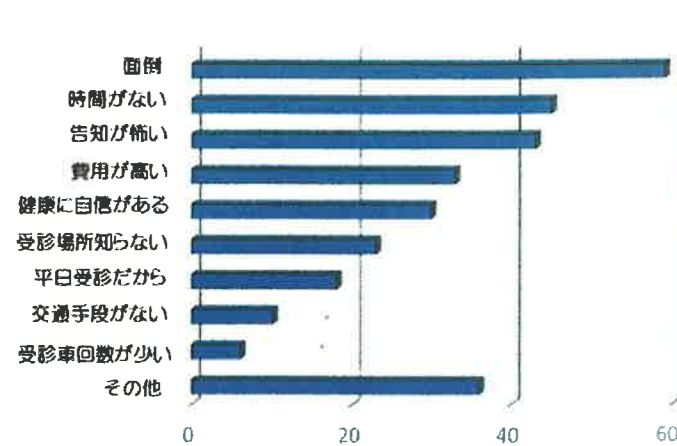


図 1.1. がん検診を受けない理由

今回の調査研究において、我々が最も知りたかったのは「がん検診を受けない理由」であったが、これらの図で示されている通り、「面倒だ」「時間がない」「がんと診断されるのが怖い」などといった個人的な理由が上位を占めていることが明らかとなった。これらの結果は、校区に関係なく同様の傾向を示した。

がん検診に関する調査は厚生労働省が全国規模でも行っているが、検診を受けない理由についての結果と比較してもほぼ同様な理由が上位を示している (図 13)。

また、順位は低いけれども、「受診費用が高く、負担になる」「受診場所がわからない」「行く手段がない」「受診が平日だから」「受診車の回数が少ない」といった受診機会を提供する行政への対応を理由として挙げた人が相当数あった。

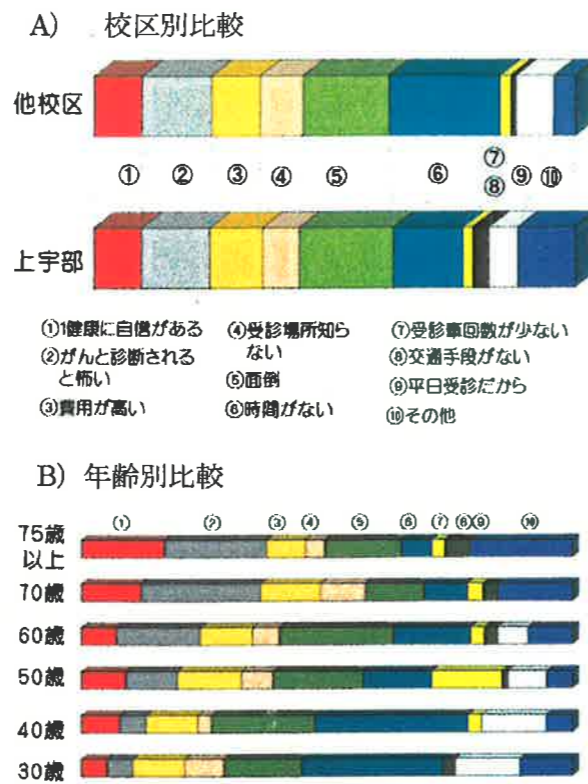


図 1.2. がん検診を受けない理由

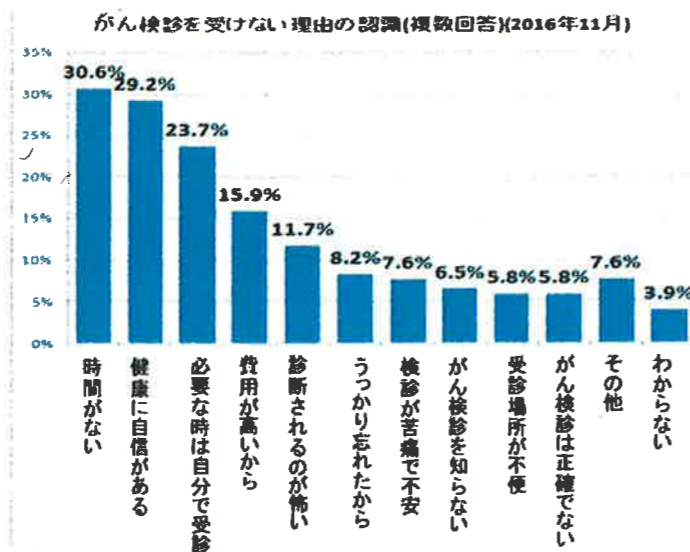


図 1.3. 厚労省によるがん検診を受けない理由調査結果

6. アンケート調査を踏まえた健康かみうべ 21 (KK21) の今後の取り組み

1) アンケート調査のまとめ

アンケート調査の結果について、繰り返しになるが以下に簡単にまとめる。

- ① 啓発ティッシュについては、「受診しようと思った」と回答した方が、全体で 43%と「そうは思わない」を 9ポイント上回ったことから、効果はあると結論づけた。

- ② がん検診の受診状況については、3人に2人は受診していると回答した。これは、全国的な調査の受診率より高い。さらに、宇部市が調査した国保受給者の受診率 (図 1) を大幅に越えている。その理由は、本調査の回答者は国保受給者に限定していないためと考えられる。このように、今回のアンケート調査では、受診率は高いことが明らかになったが、同一条件で実施した宇部市の調査で、他校区と比較して受診率は低い実態は変わらない。したがって、「がん受診率の向上」の目標は、変更することなく今後も継続して取り組む必要がある。

- ③ がん検診を受ける理由で最も多いのは、「健康管理のため」「がんは怖いから」といったように、住民の健康への意識の高さが窺えた。注目された点は、「身内ががんになった」「知人ががんになった」など、身近にがん罹患した人がいることを挙げた方が多数いたことである。
- ④ 受診しない理由で上位 3 つは、「面倒だ」「時間がない」「がんと診断されるのが怖い」と、何れも個人の問題に集約される。次いで、「受診費用が高い」「受診場所がわからない」「受診できるのは平日だから」「受診に行く手段がない」「受診車の回数が少ない」といった行政が関わる社会的な課題が続いていることが明らかとなった。

2) KK21 の今後の取り組み

今回実施したアンケート調査により、上宇部校区における「がん検診率の向上を目指す」という重点目標を達成するための活動のヒントが得られた。そこで、KK21 の来年度以降の取り組みとして、以下の活動を実施したい。

- ① 啓発ティッシュは、受診のキッカケ作りとして有効であることが分かったので、今後も継続する。ただし、レベルは配布対象や時期等に合わせて効果的なデザインとする。
- ② 検診の必要性を十分理解している方が多いことは明らかとなったが、自分のこととして危機感を持ってもらうことが重要である。したがって、KK21 のような住民組織による地道な情報発信が必要であると結論づけた。そこで、次のようなイベントを校区で開催する。
 - i) がん講演会の開催 (医療専門家等)
 - ii) 校区住民の体験談や体験記の発表 (アンケートの末尾に「がん罹った方で、体験談の発表に協力していただける方の募集」したところ、数人の申し出があった)
 - iii) 校区で実施される各種イベントにおいて、引き続き情報発信を行っていく。
 - iv) 自治会組織を通しての情報発信 (「健康かみうべ 21 だより」、がん検診のチラシ配布、自治会長会議など)
- ③ 宇部市をはじめとする行政との一層緊密な連携を図っていく。
- ④ 今年度から始めた上宇部校区の開業医との懇話会の継続的な取り組み。

7. 謝辞

本調査研究は、「宇部市地域健康づくり創造助成金」の一部を活用して実施した。

また、調査にあたって、上宇部校区で開業されている医院の方々、校区の自治会はじめ関係者の皆様に多大なご協力をいただきました。ここに、謹んで謝意を表します。